

異国の地で人々と「触れあい」 自分を見つめ直すきっかけに

台湾で学生部セミナー



▲ 台北「忠烈祠」の前で参加者のみなさん



▲ 中山大学

2011年度の学生部セミナーは3月4日から11日まで台湾で行われた。佐竹弘靖学生部次長(ネットワーキング情報学部教授)ほか学生16人が参加した。二行は高雄、台南、台北などの都市を訪ね、国際交流協定校の中山大学(高雄)では中国語を研修したほか、中国4000年の至宝が集まる国立故宫博物院(台北)などを訪ね、充実した8日間を過ごした。2学生から寄稿を紹介する。

海野 彩菜 (文2)

学生寄稿

佐藤 翔 (法4)

語学力磨き交流深めたい

私はこのセミナーに参加してさまざまなことを学ぶことができました。海外に行くことが初めてで、語学や文化の違いなど、さまざまな面で不安を抱いていました。今回



▲ 傘づくりに励む海野さん

現地の食事は、食材や味の付けが日本のものと異なり、からいかわいかわいがある。違いが特に感じられたのは、食事や買い物などです。タピオカミルクティ

文化の違いに戸惑いも

仲間と力合わせ意思疎通

なことから文化の違いを感じました。語学研修先の国立中山大学のキャンパスは、山

様式で統一されていて、学内を移動するためにバスを使うほど敷地面積が広がりました。私のクラスは円卓を少人数で囲む



▲ 中山大学で中国語を学ぶ



▲ 伝統的な食事も楽しんだ

最も印象的な出来事は、台湾茶の茶店に行きジェスチャーや片言の中国語などを使ってコミュニケーションをとったこと。英語は通じず、また日本語もあまり通じな

母国と専大に誇り持った

今回の学生部セミナーせんが、戦後の日本も特に残っていたり、現在は、私たちが行ったところのほとんどに、日本の文化が取り入れられていました。文化が浸透していたこと、かつて日本が統治していたからかもしれま

大先輩・盧さんと会食

偉大な先人たちに感謝

せんが、戦後の日本も特に残っていたり、現在は、私たちが行ったところのほとんどに、日本の文化が取り入れられていました。文化が浸透していたこと、かつて日本が統治していたからかもしれま

な自分は日本人である学生は、日本に対してと、改めて実感しました。彼らは、自国の文化や歴史、政治経済など台湾のことを現地での学生交流はあ

心で、日台中の外交関係についても考えているほどでした。日本などの外国の影響を強く受け、各地に外国のものが浸透しているにもかかわらず、台湾人であることに誇りを持っていきます。彼らと修大学のグローバル化の礎となった大先輩です。今回のセミナーを通じて、自国である日本と専大に誇りを持つことが出来るのは、こと、先人たちの尊敬と感謝の念を持つことの大切さを学びました。また、これは、私を含め多くの日本人に足りないものではないかとも思いました。



▲ 写真撮影する佐藤さん

も日本語がある程度通じたので、国内旅行をしている感覚になってしまった。日本を受け入れてくれていることにも感謝しました。また、そのよう

はもちろん、日本のことが、観光ガイドなどについても詳しく知っててくれた数人の台湾人のいました。かなり勉強熱心

単なる観光旅行ではできない、貴重な経験をすることができて、とても有意義なセミナーでした。私も友好的で親切でした。道に迷った時に助けてもらったこともありました。フリータイムでは夜市などで買い物をしました。